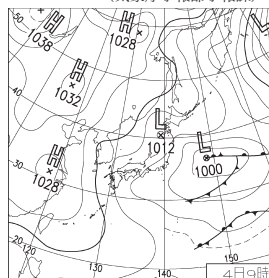


日々の天気図

— No. 74

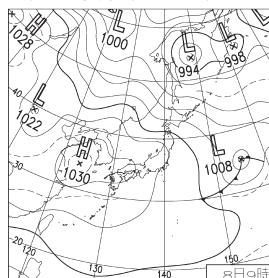
2008年 3月

- ・20日～21日、発達した低気圧により東京都八丈町で251 mm/24 hの降水と34.4 m/sの最大瞬間風速。
 - ・27日、上空に寒気が入り鹿児島県垂水市といちき串木野市で竜巻が発生。強さはどちらもF1。
 - ・北・東日本で1946年以降3月としては2002年に次ぐ第2位の高温。
- (気象庁予報部予報課)



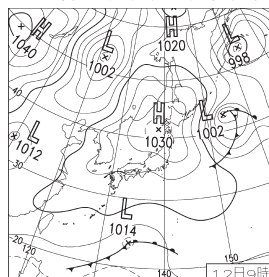
4日(火) 季節はずれの初冠雪

秋田沖の寒冷低気圧の影響で、西日本を中心に寒気が流入。鳥取県米子市上空約5300 mで-37.3℃。熊本県金峰山で平年と比べて48日遅い初冠雪。山口県下関市でひょう。



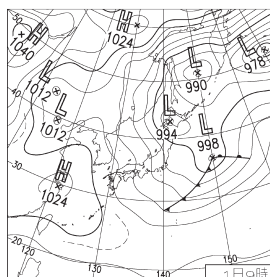
8日(土) 北日本 寒さやわらぐ

西～東日本は黄海の移動性高気圧に覆われ、寒気の残った北日本の日本海側の一部で曇り、その他は概ね晴れ。北海道の最高気温は平年より2℃～7℃高い3月下旬～4月中旬並。



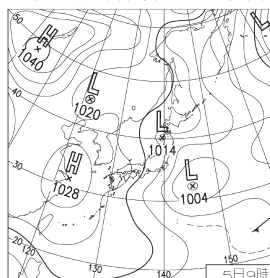
12日(水) 穏やかな天気と高気圧

日本付近は日本海北部の高気圧に覆われ、全国的に晴れ。関東地方は夜には気圧の谷の影響で、下層雲が広がり曇りとなった。東京都小笠原村母島で115.5 mm/日の降水を観測。



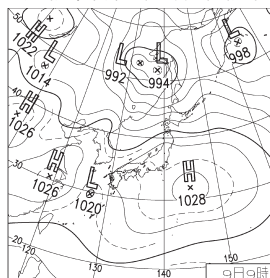
1日(土) 「冬型」で3月スタート

本州中心に冬型の気圧配置。東北の日本海側～山陰は雪を伴った雪や雨、その他の地域は晴れや曇り。一方北海道を低気圧通過。札幌市は13 cm/日の降雪。宮崎市でツバキ開花。



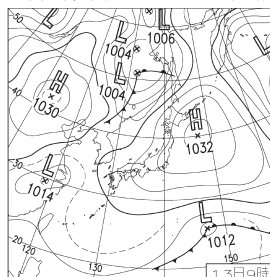
5日(水) 寒気低気圧南下

上空に寒気を伴った低気圧が秋田沖をゆっくり南下。石川県輪島市上空約5300 mで-39.7℃を観測。日本海側は時々雪や雨。太平洋側は東海以西で晴れ。関東以北は曇り後晴れ。



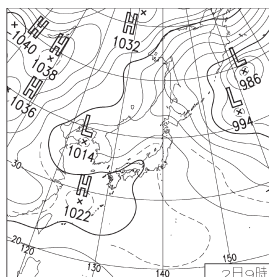
9日(日) 北海道で10℃越える

北～東日本は概ね晴れ。北海道は初めて気温10℃を超え。網走市で平年比12.6℃高い12.5℃の5月上旬並。沖縄県石垣市登野城51 mm/1 hの雨。関東、東北各地でウグイス初鳴。



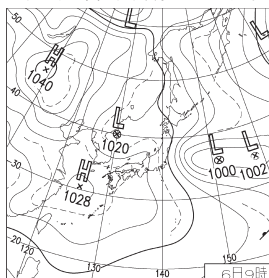
13日(木) 全国的な暖かさ

三陸沖の高気圧に覆われ全国的に晴れや薄曇り。日中の気温は3月下旬～5月下旬並で、鹿児島県阿久根市22.6℃。湿った空気が入った四国の太平洋側では70～80 mm/日の雨。



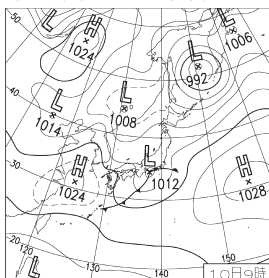
2日(日) 本年初めての黄砂

東シナ海の移動性高気圧に覆われ風も弱く、東北以南は晴れ。北海道では寒気が残り雪の所も。中国大陸では昨日から黄砂を観測していたが、本日夕方長崎県対馬市厳原まで到達。



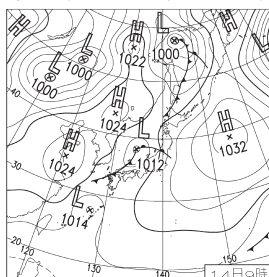
6日(木) 釧路市 流水初日

日本海を低気圧が南東進。北日本の雪は小康状態。西～東日本は日本海側の一部を除き概ね晴れ。北海道釧路市で5年ぶりに流水を観測。水戸市と鳥取市でタンポポ開花。



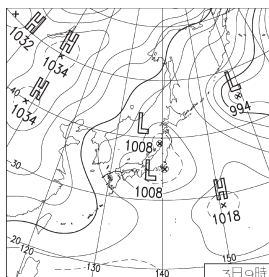
10日(月) 所々で春雷

本州南岸を低気圧が東北東進。西日本から雨や雷雨に。奈良市ではひょうを観測。北海道～東北北部は晴れて気温上昇。最高気温は4月並。沖縄県石垣市川平138 mm/24 hの大雨。



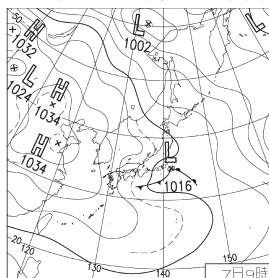
14日(金) 静岡県非常に激しい雨

全国的に曇りや雨。日本海の低気圧に吹き込む暖かい湿った空気の影響で西～東日本の太平洋側で激しい雨。静岡県富士市富士で55.5 mm/1 h。東北、北陸、関東でヒバリ初鳴。



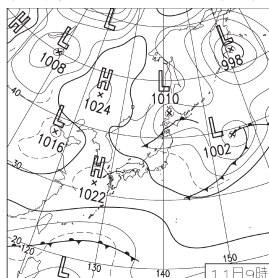
3日(月) 黄砂、東日本へ広がる

上空に寒気を伴った低気圧が秋田沖では停滞。長崎県五島市では直径10 mmのひょう。一方黄砂が西日本から広がり、一部は東北部にまで達した。黄砂により視程は8 km前後。



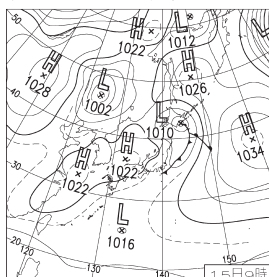
7日(金) 東京で今年初の雷

高気圧に覆われ各地とも晴れた。関東の東海上に低気圧が進み、遅れて上層の寒気が通過。東京では、にわか雨とともに雷を観測。伊豆の河津桜は満開で祭りのにぎわいが続く。



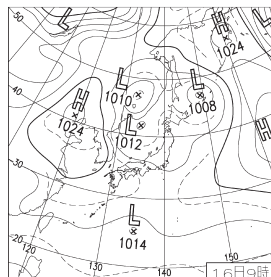
11日(火) 春一番の暖かさ

東北北部～北海道は雨や雪。沖縄は雨だが、その他は九州西海上の高気圧に覆われ広く晴れて最高気温は4月中～5月上旬並。東日本の太平洋側で20℃を超えた所も。



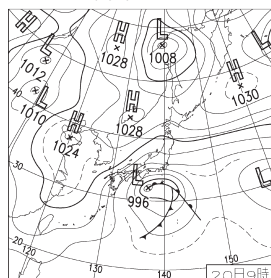
15日(土) 東～西日本 晴れて昇温

低気圧は北海道付近を北上。東北北部～北海道は雨や雪。東～西日本は移動性高気圧圏内で概ね晴れ。太平洋側を中心に気温が上がり、最高気温は4月中～下旬並の所も。



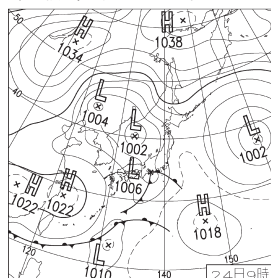
16日(日)行楽日和

東～西日本は高気圧に覆われて概ね穏やかな晴れ。北日本は上空に寒気を伴った低気圧が接近。夜には日本海側で雨や雪。千葉県銚子市でモンシロチョウ初見。



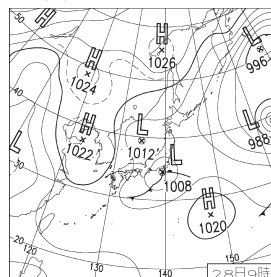
20日(木)八丈島で猛烈な雨

低気圧は本州の南海上を東進。東日本を中心に雨で、東京都八丈町八重見ヶ原で86.5 mm/1 h。東日本の太平洋沿岸や伊豆諸島は北東の風が非常に強く、海上は大しけ。



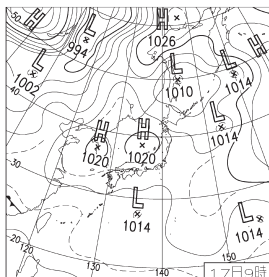
24日(月)四国からサクラ開花

本州の太平洋沿岸沿いを低気圧が東進し、西日本は午前中、東日本は昼過ぎまで、北日本は午後雨。西日本は午後晴れたため、各地でソメイヨシノが開花。



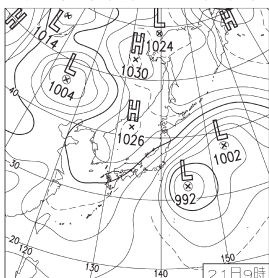
28日(金)宇都宮市でサクラ開花

日本海には上空に寒気を伴った低気圧、東海沖にも低気圧があり東進。北日本や北陸で曇りや雨。東海地方や関東南岸で朝のうら雨。午後は冷たい北東風が流入し関東は所々で雨。



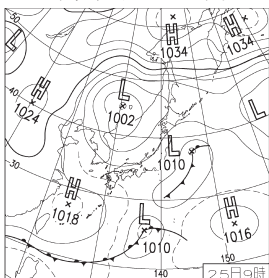
17日(月)黄砂東北まで

日本海に中心を持つ移動性高気圧に覆われ全国的に晴れたが、気圧の谷の接近で、関東地方南部は午後から曇り。北陸地方、新潟、長野、福島で黄砂観測。青森でヒバリ初鳴き。



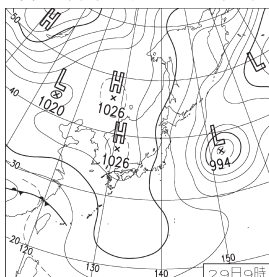
21日(金)関東沿岸部 暴風続く

日本海の高気圧に覆われ、全国的に概ね晴れるが、関東の沿岸部や南部は曇りや弱い雨で、風の強い状態が継続。千葉県銚子市で最大瞬間風速33.5 m/s、最大風速26.4 m/s。



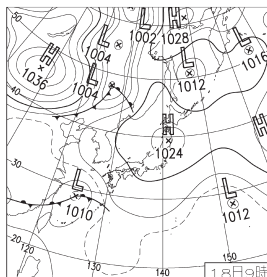
25日(火)朝の濃霧に午後の雷

朝、本州内陸部を中心に所々で濃霧。日中は晴れて気温が上がり、東～西日本でサクラの開花進む。午後は九州～北陸や関東の所々で雷雨となり、長崎県五島市本場町でひょうを観測。



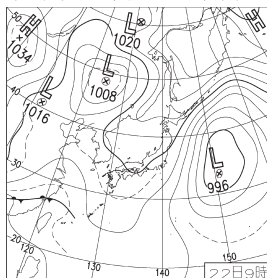
29日(土)鳥取市でサクラ開花

日本海の高気圧に覆われたが、上空の寒気の影響で北陸～北日本の日本海側は時々雨や雪。東日本の太平洋側～西日本は日中概ね晴れて花見日和。南西諸島は曇りや雨。



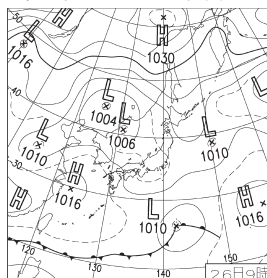
18日(火)黄砂続く

高気圧に覆われて晴れの所多い。九州は午後には雨の所も。気温は全国的に平年より4～7℃高く、4月中旬～下旬並。北陸～東北南部で黄砂観測。和歌山県潮岬でモモ開花。



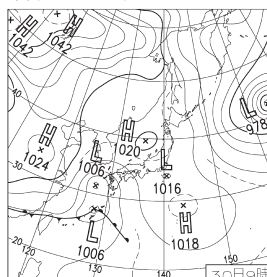
22日(土)晴天の本州 サクラ開花

高気圧に覆われほぼ快晴となった本州。西日本で巻雲が広がる程度。最高気温は沖縄を除いて4月の中・下旬並みに上がり、東京、静岡、名古屋、熊本でソメイヨシノ開花。



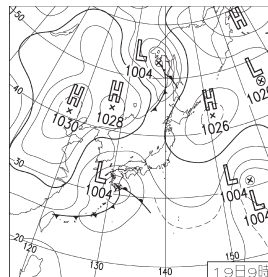
26日(水)引き続き「不安定」

寒気を伴った気圧の谷が通過し、大気の状態不安定。東日本や中国、東北は所々で雨や雷雨。北海道や関東は前日に続き気温高く、東京都心で最高気温20.4℃。



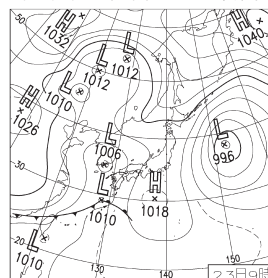
30日(日)沖縄で非常に激しい雨

東シナ海の低気圧が東進。南西諸島は沖縄県渡嘉敷村で73 mm/1 hなど所々で非常に激しい雨。西日本は雨、東日本は曇りから次第に雨となったが、北日本は高気圧に覆われて晴れ。



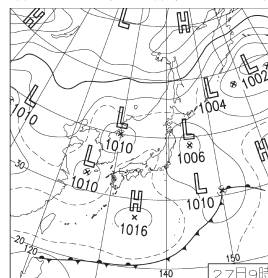
19日(水)西から低気圧

九州の南をゆっくり東進する低気圧により西日本は終日雨で、三重県尾鷲市で159 mm/日。北日本は概ね晴れ、最高気温は平年より高く4月上旬～下旬並み。甲府でスマイル開花。



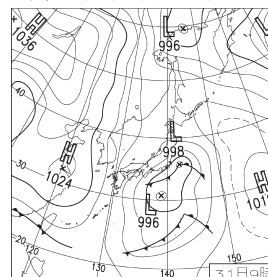
23日(日)西日本から雨域拡がる

低気圧が九州南西海上から北東進。西日本では雨が降り出す。関東～北日本は概ね晴れて、横浜と岐阜ではソメイヨシノ開花。沖縄県宮古島市新城で72 mm/1 hの非常に激しい雨。



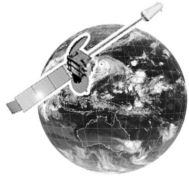
27日(木)鹿児島で竜巻発生

上空に寒気を伴った日本海の低気圧の影響で九州各地で雷雨。鹿児島県垂水市、いちき串木野市で竜巻発生。東京で観測史上3番目に早いサクラ満開、2年連続全国トップ。



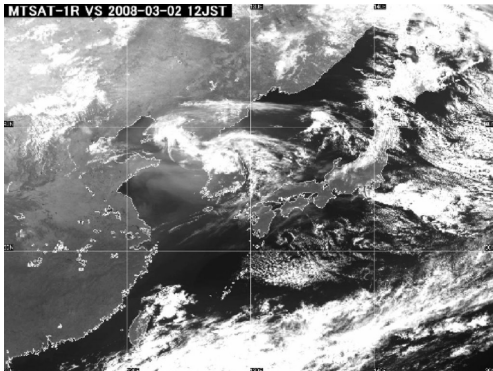
31日(月)関東は花冷え

南海上を低気圧が東進。東日本～東北は冷たい雨や雪で、太平洋側中心に真冬並の気温。西日本は高気圧圏内だが、寒気の影響で雲多め。静岡県御前崎市で径20ミリのひょう。

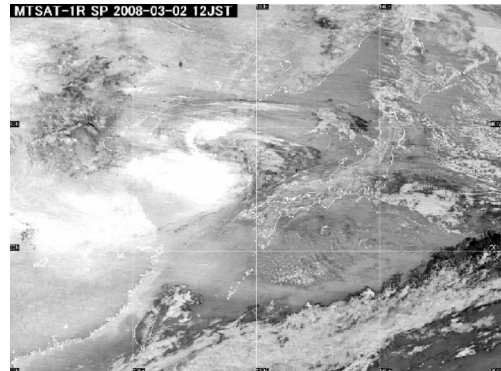


今月のひまわり画像—2008年3月

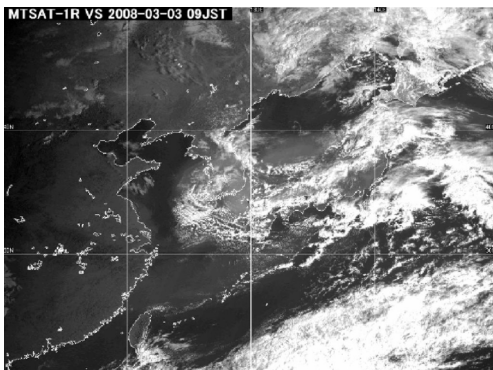
春の使者 「黄砂」



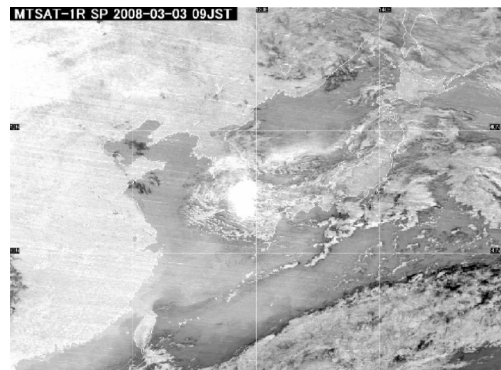
2008年3月2日12時（日本時間） 可視画像



2008年3月2日12時（日本時間） 赤外差分画像



2008年3月3日09時（日本時間） 可視画像



2008年3月3日09時（日本時間） 赤外差分画像

春の訪れとともに、中国大陸では砂漠に積もっていた雪が解け、発達した低気圧の通過に伴う強い突風により、ゴビ砂漠・タクラマカン砂漠・黄土高原などから大量の砂が上空に巻き上げられる。この砂が上空の風に運ばれ、遠く韓国や日本まで到達する現象が「黄砂」である。

黄砂が発生する砂漠地帯では、砂塵嵐が人や家畜・家屋などに被害を与え、上空の風に運ばれて黄砂として飛来する韓国や日本では健康被害や視程障害を起し、時には航空機の運航に影響を与える。黄砂は目視によって観測されるが、大規模な場合は気象衛星画像でも観測できる。

図の上段は3月2日12時（日本時間）、下段は3日

09時（同）の画像で、左列は可視画像、右列は赤外差分（赤外1と赤外2の輝度温度の差）画像である。

2日の可視画像では朝鮮半島付近に低気圧に伴う雲域があり、黄砂はその南西側にペール状の半透明の領域として、赤外差分画像では黄海を中心に白く輝く領域として解析できる。3日の画像では領域は狭まったものの九州を中心に日本海西部から黄海に黄砂が解析できる。

石英の放射特性は、赤外1画像の波長帯（約11 μm ）と赤外2画像の波長帯（約12 μm ）で僅かながら異なるため、石英を多く含む黄砂が大量に飛散している領域は赤外差分画像では上図のように白く表示される。なお、火山灰も石英を多く含む場合は黄砂と同様に白く映る。（気象庁予報部予報課 西村修司）